

錢 珊珊

QIAN Shanshan



土の魅力

ジェッソ、スチレンボード、色紙

## 土の魅力

建物の建設と解体時の、建築廃棄物において、木材や鉄やガラスなどは再利用されることが多いが、コンクリートは再生不可の部分となり、その処理方法は埋めることが多い。それらは建築廃棄物として、地球が消化するのに何百年、何千年もかかる。生態系への不可逆的なダメージが掛らずに、再生可能建築はあるのか？

日本の伝統的な土壁技術と版築技術という建築技術を使用すれば、エコロジカルな建築が作られる。土壁は木造の建築構造上に、草と土が発酵後の粘土を左官さんが竹小舞上に塗るという制作技術である。版築は主な建築材料を土から作られる。制作方法は木造の模型中に潤ったルーズな土を入れ、その後、ラーマン機を使って土を締め固めという製造方法である。大学院二年期間、土の色、形成条件、性質、特徴、地形、伝統的な土留め工法や近代的な土留め工法など、土の全体像を収集した。土の魅力を視覚化し、土の特性や可塑性を最大限に生かすため、4つの異なる用途の作品を異なる気候帯に配置し、地元の文化、自然素材、土と組み合わせることで、環境に配慮したエコロジカルな建築を計画した。

作品一:「Earth」をテーマとして、熱帯に配置し、循環というキーワードに沿って、タイ国のプーケット所属ココナツアイランドに体験系レストランを設計した。この建築は土の調湿調温の特性を利用している。お客様は土の美学と農業形式の進化を見学するだけではなく、レストランはオーガニック食材を使用しており、お客は自分で食材を摘み取って、キッチンに任せる又は自分で調理をすることができる。森と生態系を守って、持続可能な経営理念である。

作品二:「Cross」をテーマとして、乾燥帯に配置し、対比というキーワードに沿って、中国の甘肅省蘭州市に市民活動センターを設計した。版築の歴史を重視し、中国西北特徴な丹霞地勢とヤオトンをインスピレーションとして、「過去と未来」、「東洋と西洋」、「動と静」以上の対比方法に取って、各用途のゾーニングを設計した。

作品三:「Mix」をテーマとして、寒帯に配置し、融合というキーワードに沿って、フィンランドのヘルシンキの地域ためのワークショップを設計した。フィンランド土着建築コートからのインスピレーションとして、建築物は土の自由度の高い特長を利用して鉄や木材やガラスなどの素材を組み合わせた建築である。その建築の中に図書館、工房、自習室など総合空間である。

作品四:「Charm」をテーマとして、温帯に配置し、魅力というキーワードに沿って、日本の東京の檜原村にゲストハウスを設計した。地元の文化、歴史、風土を組み合わせ、檜原村にある空き家を再設計して、左官壁の表情や土壁の魅力を観光者に向けて発信する。